NRU
国労せんだい
こくろうせんだい 速報版
号外
2017年3月4日
発責 大沼 元
編責 武田 昌仙

中央交渉を押し上げる！
国労東北 闘う春闘を意思統一

デモ行進で気勢を上げる参加者

3月3日、仙台市内において国労東北総決起集会が開催され361人の国労東北の仲間が結集した。

仙台市・ホテル法華クラブでの集会は二部構成で行われ、第一部として、財団法人国鉄労働会館主催の東北労働講座が行われた（左記）。

第二部は、国労東北総決起集会が行われ、主催者を代表し、東日本本部菊池忠志委員長と東北協議会佐々木力議長がそれぞれあいさつを行い、春闘情勢とJR会社の動向、国労の取組み、17春闘勝利と諸課題の前進、そして闘いを通じて新しい仲間を国労に迎え入れる決意を固め合おうと訴えた。

また来賓として、政党や友誼団体からあいさつを受け、東北三地本の各代表と東北貨物協議会議長からそれぞれ力強い決意表明を受けた。

集会後に参加者は4隊列に分かれ仙台市内をデモ行進。

賃上げを始めとした労働条件の改善や安全問題などの国労要求をシュプレヒコールで市民にアピールし、気勢を上げた。

要求獲得に向けて頑張ろう！

労働講座 利用者の立場で目を光らせる

講演する上岡直見氏

講座は、「JR発足30年、セット、張りぼてのようだ。表向きは大変綺麗できらびやかなイメージだが、裏に回ればつっかえ棒で支えられているような会社。地方へ行くとそれがよくわかる」として、分割・民営化直前に政府・自民党が約束した内容と現在を対比した地方の実情を具体例を挙げて証明した。

一例を示せば、「全国画一からローカル優先のサービスに徹します」と約束したが、現実は、「ICカード導入区間でも自動改札機も簡易読取機も設置せず、かつ無人でワンマン運転のため、運賃収受が運転士の負担で遅延が常態化」また、「明るく親切な窓口に変身します」と約束したが現実は、「地域の主要駅でも無人化が進み、要員の不足から、改札と放送を兼務しホームを見ずに放送業務、片手で清算の実態」であり、約束は反故・破綻していると述べた。また上岡氏は、持論として、「鉄道からバスへの転換はコスト削減となる」はウソであることの調査資料を示しつつ、「バス転換は公共交通崩壊の過程であり、鉄道こそが公共交通の最後の手段である」と結論付けた。

最後に上岡氏は、「マイナスの部分もしっかりと指摘し見続けていきたい」と利用者の立場で目を光らせることと、労働組合はその立場からしっかりと闘うことを要請して講演を閉じた。

市民・会社にアピール

国労東北総決起集会の前段には、仙台支社前と仙台駅東口において早朝チラシ配布行動が取り組まれた。

チラシには、「17春闘勝利」を始めとして、「格差社会をなくそう」「反原発・反基地・護憲」「改憲・戦争反対」「車両のアスベスト含有問題」など、多くの課題と要求が書き込まれており、広く市民にアピール行った。

仙台支社前での行動

仙台市内になびく赤旗